

神経精神科この1年

神経精神科医長 鎌田 隼輔

診療体制

常勤医師 平成17年1月から3月までは昨年と同様に、土田、山本、鎌田の3名体制でした。山本医師は3月末で退職し石橋病院（小樽市）に転出し、土田医師は6月末で退職し中垣病院（札幌市）に転出しました。そのため、平成17年7月以降は常勤医師が鎌田1名になりました。

非常勤医師 平成17年1月から3月までは昨年と同様に、札幌五稜会病院 原田研一医師には隔週の水曜日に、旭川医科大学 阪本一剛医師には毎週月曜日に外来診療をしていただきました。平成17年4月以後は、阪本医師の月曜の外来は継続されましたが、原田医師の外来診療にかわり、あらたに旭川医大と圭泉会病院からむかえた4名の医師による外来診療がはじまりました。高田利弘医師（旭川医大22期）には水曜外来を、鈴木邦夫医師（旭川医大10期、圭泉会病院）には木曜外来を、高崎英気医師（旭川医大20期）と山口一豪医師（旭川医大25期）には金曜外来をそれぞれ担当していただきました。また、週末の病棟診療、および救急外来診療を阪本医師、高崎医師、山口医師、布村明彦助教授にお願いしました。各先生にはこの場を借りて感謝したいと存じます。また、精神科外来スタッフ、病棟スタッフ、および救急外来スタッフには、常勤医師が不在中にはいろいろとご迷惑をおかけしました。どうもありがとうございました。なお、臨床心理士の豊島眞先生には従来どおり月2回出張していただきました。

外 来

平成17年1月から12月の新患数は514人でした（前年比87%）。外来の受付を午前中とし、再来の患者さんはできるだけ予約患者さんを優先しました。そのため、新患に長時間待つていただくことになりました。新患も予約制にしたいところですが、常勤医師ひとりでは難しいため行えませんでした。従来、看護師が行っていた診察室への誘導

を医師が行うことにし中待合を廃止しました。救急外来には平成17年1月から12月までにのべ508人（救急外来受診者数の4.9%）が受診し、そのうち63人が入院しました。

病 棟

平成17年1月から12月までの新入院患者数は85人でした（前年233人、前年比36%）。

また、退院患者数はのべ153人（2回入院12人、3回入院3人）でした。その内訳は、自宅への退院が75人、他の精神科医療施設への退院が33人、老人介護療養医療施設（グループホームを含む）への退院が14人、知的障害者施設・精神障害者授産施設への退院が7人、死亡・転科が6人でした。平成17年4月から常勤医師が減少することになったため、3月頃から長期入院患者さんとその家族に事情を説明し同意の得られえた方から転院を勧めました。医療支援相談室の原田ケースワーカーには、転院に関する家族との連絡や転院先との交渉などさまざまな業務を精力的に行っていただきました。ありがとうございました。

地域との連携

平成17年は地域のネットワーク会議にもなかなか参加できずにおりましたが、地域のネットワークは次第に強固なものとなっています。病院、保健所、市役所、地域生活支援センター、名寄短大、社会福祉協議会、家族会、緑ヶ丘授産所・援護寮などのメンバーとの意見交換は貴重であり、名寄地域の精神医療福祉活動を牽引しています。

おわりに

今後も道北地域が精神科医療の過疎地域にならぬよう、関係者一同で知恵を出し合い、いつでも精神科医療が安心して享受できるよう力をあわせていきたいと思っています。